

会議結果のお知らせ

令和6年度第1回田老地域づくり協議会を、次のとおり開催しました。

令和6年6月4日

田老地域づくり協議会

1.開催日時

令和6年5月28日（火）午後6時30分～午後7時45分

2.開催場所

田老総合事務所2階会議室

3.協議

- (1) 地域自治区廃止に向けた検討
- (2) 宮古市教育振興基本対策審議会委員の推薦について
- (3) 令和6年度田老地区イベントについて
- (4) その他

4.会議の概要

協議(1)について、現段階の市の案を事務局から説明し、意見等を求めた。
議題(2)から(4)について、事務局からの説明の後、意見等を求めた。
詳細は、別添議事録のとおり。

5.問い合わせ先

田老地域づくり協議会事務局 宮古市田老総合事務所地域振興係
電話 0193-87-2971（直通）（内線 6213）

令和6年度第1回田老地域づくり協議会

- 1 開催日時 令和6年5月28日(火) 18:30~19:45
- 2 場所 田老総合事務所 2階 会議室
- 3 出席委員 八重樫則夫会長、坂本幸弘委員、畠山正広副会長、鳥居大樹委員、牧野明美委員、高屋敷峰子委員、佐々木優委員、加藤洋一郎委員
- 4 欠席委員 前川邦夫委員、前田恵美委員、藤田千賀子委員、玉澤邦彦委員
- 5 事務局 田老総合事務所 久保田亮二所長、山本恭彦副主幹兼地域振興係長、上坂春樹主査、阿部優大主事、山本美絵主査
- 7 傍聴者 なし
- 8 議事等
18:30 1.開会
18:32 2.会長挨拶
18:33 3.協議
(1)地域自治区廃止に向けた検討
(2)宮古市教育振興基本対策審議会委員の推薦について
19:25 4.令和6年度田老地区イベントについて
19:35 5.その他
19:45 6.閉会
- 9 結果 **【協議事項1】**
地域自治区廃止に向け、①地域自治区・地域づくり協議会②地域創造基金・補助金について協議した。
① 内容等はおおむね了承。意見として新体制の協議体を作る際に趣旨や目的、役割等を明確に示すべき。
② 交付年数(原則3年)について再検討するべき。新しい事業は現実的ではない。伝統的な行事を残す方に応援をお願いしたい。
【協議事項2】
宮古市教育振興基本対策審議会に畠山正広副会長を推薦すること承認。

令和6年度田老地区イベントについて、地域づくり協議会委員の任期延長について、日本ユネスコ協会連盟「プロジェクト未来遺産2023」登録証伝達式並びに記念講演について説明、周知した。(詳細は別紙のとおり)

質疑応答

質問・意見	回答
<p>【地域自治区・地域づくり協議会】 (委員) 新しい協議体について、自治会連合会等から選出を考えているとのことだったが、今の地域づくり協議会のような組織になるのか？</p> <p>(委員) それであれば、設立する際には、設立の趣旨をきちんと示してほしい。「こういうことをやるために人を集めたいです。」というのをほかの連合会等と区別してしっかり書き込まないと、また新しい訳がわからないのができたとなりかねない。</p> <p>(委員) すごく大事なことだと思う。そういうのはどこでどういう形で決めるのか？</p>	<p>(事務局) 名称は変わっても、同じような組織になるイメージである。 法にのっとったものではないが、同じようなことをする団体のイメージ。 地域づくり協議会がなくなると、意見を聞く場や話し合う場がなくなるということで継続して残したいという趣旨になる。</p> <p>(事務局) まず、各地区で地域づくり協議会を開き、今時点の7年度以降の市の案の大枠を提案している段階。委員から意見等を集約したうえで、具体案を作っていくという流れ。今日はその意見集約のため協議会を開催している。これから何度か協議会を開催し、具体案を検討していくことになる。</p>
<p>【地域創造基金・補助金】 (委員) 審査機関の市民自治推進委員会とは？</p> <p>宮古に行って審査を受けるということ？</p> <p>(委員) 交付年数が原則3年となっている。そうすると3年目以降は受けられないということか？</p>	<p>(事務局) 宮古地区に現在ある協議体。(①資料の6ページを参照)</p> <p>宮古市全部の事業を一つの委員会で審査するということ。</p> <p>(事務局) 同じ内容を続けると、3年で終わりになる可能性はあるかも。検証して変化をつけたり、新しい何かを組み込んでとかなれば継続は可能ではないか？(ただ、毎年変化が必要かも)</p>

<p>(委員)</p> <p>市は、新しいことにチャレンジしてほしいというが、現実問題この状況で新しいことにチャレンジする人があるとは思えない。正直高齢化というのを考えると、今やっている事業を続けた方が意味があると思う。若い人がたくさんいるのであれば、「どんどんやってくれ」ができると思うが、今の人口の構成から行けば、新しいのをやるより今実施しているものを続け実施していくことが意味があるのではないか。その方が住民は喜ぶのではないか。</p> <p>(委員)</p> <p>私も同じ考えだ。今のままの事業を残していくのがいいと思う。自分が審査会に参加した際、ほかの地区の委員から「人が少なくてやりたくてもやれないというところがある。それに比べて田老地区はよくやっている」とうらやましがられたことがある。いつまで続けられるか、ずっと続けていくのも難しくなってくると思う。続けてくれる団体がある限り、審査基準をあまり厳しくしないでいただきたい。</p>	<p>審査機関が市ではないため、資料の作り方はアドバイスできるかと思うが、必ずしも審査を通るという約束はできない。</p> <p>地域創造基金の審査の間でも同じ事業を毎回やっているよねという意見がでていた。原則3年は市として今段階で考えている案に過ぎない。決定ではない。</p>
------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

19:45 田老総合事務所地域振興係長が会議の閉会を宣言